

保育者のため

女子高等師範學校附屬

幼稚園分室(第四卷第
千一號續)

一、各幼兒に關する調査

幼兒全數五十名の内普通の者を除き、或特徴ある者、特異なる心身の狀態を有する者、其他注目すべき者等のみを掲ぐ、年齢の下に記すは父兄の職業なり、

(男)六年十一ヶ月 八百屋

江戸兒の下等社會の標本とも言ふべきか、俠氣と言は言ふべき質を帯び、如何なる事にも頼まれば明瞭なる一言の下に快諾し、其人の爲に盡す、自己の權利を主張せん爲に稍もすれば腕力に訴へんとす、但し其事終れば洒落意に介せず、從

て何人とも淡泊に愉快に交際す、言語舉動野卑粗暴常に強く大なる音聲を發す、

諸心力の發達普通何事にも一諾の下に着手すれども、智力的の考及其發表の力之にかなふにあらず思想周密を欠き、手技の如き熱心に工夫を廻らすなどは面倒くさく他兒のを模倣してすまさんとする傾あり、勉めて着實の氣風を養はんとし、家庭にも注意したれども、家庭家族其他四邊の狀況は此兒を沈着に導く資に乏しく、十分の目的を達する能はず

(女)六年十一ヶ月 父なく母は仕立物をなす伶俐にしてよく大人の意向を知る、其心の廻り加減、推察する事の深き、注意の周到なる、禮儀作法をあまりよく心得てわざとらしく之を守る、言語舉動の老成といふべき迄に沈着なる、世才に長

せる、表情を容易にせざるなどの諸点に於て、著しく子供らしくならず不自然なり、之は其祖母が唯一の孫として愛するあまり行儀よきしとやかなる

女たらしめんことを望み、大人と子供の心身の差異とか、幼児に適度なる事とかを辨へずして、無暗に行儀をやかましく訓へし爲に、老女の如き幼女となりしものなり、此点に付き祖母に説きし結果又幼稚園に於て無邪氣なる多数の幼児と交はる爲に在園三年の間に漸次幼児らしくなり、入園當初に比して退園の際はよほど普通に近くなりぬ、

は(男)六年十ヶ月 印刷業
鋭敏伶俐にして感情家なり、才智は廻り過ぎる位にて一体に早熟の氣味あり、之は家庭に於て父母初め雇はる、職工などが、此兒を賢し面白しとしておもちやになし様々の事を注ぎ込むより出でた

るにて、爲に幼者ながらに頭痛を知り時に之に苦む事あり、

(女)六年六ヶ月 人力車夫

聴官に故障ありて聴覺鈍かりし爲、知力の發達著しく普通よりも遅れたり、特に言語にて思想を發表する力乏しく、問へども答へず又は僅かに言ふのみ、加ふるに家庭にて耳遠を遅鈍の子として取扱ふ爲に強情にしてひがみ傾あり、耳の治療を勧むると共に取扱に付て母に注意して以來漸次良き方に向ひ發達しつゝあり、
は(女)五年十ヶ月 鐵砲製造所職工

一人子にして家庭にては祖母と靜かに遊ぶを常とし起居飲食の世話亦祖母の引受くる所なる爲にいかにも老人じみたる處あり、常に大人の言行を綿密に觀察批評す、祖母に注意して後稍幼児らしく

なりぬ、

(へ) 女 五年十ヶ月 父なし母は裁縫を教授す幼

にして父を失ひし不憫に加へて季子の事として母姉の鍾愛一方ならず、従て温かなる情感を有し他愛の情に富む、但し父なき家の自ら淋しく殊に女兄弟のみにて家庭は屢々父なき悲しさを此兒の居る時にも語るもの、如く、時に大人の様なる口調にて亡父に付て物語る事あり、而して何事をも悲観する傾あり、全く家庭の境遇より生ずる結果なれば、幼兒に對してあまり悲哀を説かぬ様に物淋しく心細く思はしめぬやうに、母に注意したるより、大分愉快なる方に向ひ來りぬ、

(と) 女 五年八ヶ月 集金人
家庭の境遇 上父母に別れ祖父母の許に養はれ、其家族は此子を危介物視する 傾 あるを以て、自

ら心ひがみ邪推深く、常に不愉快不満が心にひそむ様にて、感情の發達圓滿に欠き、穩ならず怒りすねる事多し、之等は全く愛の欠乏に基くものなれば其旨祖父母に説きたると一面保姆の愛に感ずる様になりたると兩方にて稍圓滿なる方に向ひつゝあり

(ち) 男 五年六ヶ月 砲兵工廠職工

不屈不撓の精神氣骨に富み事をはじむれば障害に遇ふも後るゝも決して失望せず熱心に成し遂げて後止む、確固たる強き意志を有し何事も理性に訴へてなし不當と認むる處は如何に他兒が之を誘ひ之に迫るも従はずしかも保姆には極めて従順、之等の点に於て大人もはづかしき迄の長所を有す、其母の身上話に由て察するに母は幼時より諸種の困難を経來り心身の鍛練を受けしものにて此兒の

性格は主として母に由るもの、如し (完)

幼稚園の遊戯 (其六)

松村 ひさ

保母は遊戯の時間をあまり永くしてはならぬ。もしあまり永すぎると、しまひには子供の心をも身体をも治めて行く事のできぬ様に、よく統御もできぬ様になつて来る。

之は遊戯に限らず何でも幼児にさせる事はあまり長くつゞけ過ぎると、幼児は倦み疲れて興味を失ひます。そうして元氣なく沈むとか又は氣晴らしにさわぐとかいふ風になります。こうなると先生の命令などはあまり守られず、幼児は自然に各勝手な休息法をとり又は變化を好む天性を満足させん爲にさまざまの事をはじめま

す。之を制して保母が或命令を出す、守らぬといふ風ではよほど訓練上害のある事で、其此處まで至らぬ間即ち或事をして居つて佳境から段々倦むといふ場合に進まぬ迄にやめてしまふ事が必要であらうと思ひます。

保母はあまり多くを言つて自家の品格を下げてはならぬ、王位に居つて確固たる力を保ち隠然たる勢力を以て幼児の指導者となつて居る様でなければならぬ
自發活動を許すは大切な事であるが、之が嵩じて幼児をして亂暴にならしめるやうな事があつてはならぬ

活潑と亂暴、之は稍もすればまちがひ易く、之位は活潑でよいと思つて居ると何時の間にか、亂暴に流れてしまひ、之を御して行き又矯正して